

学校教育目標	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子の育成 ～かしこく やさしく たくましく～
目指す学校像	共に高め合う学校 よさを認め合う学校 安全で美しい学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶ楽しさを味わう授業と学び方の指導で「真の学力」を育成する。 2 児童のSOSの早期覚知と保護者等との連携強化で、子どものWell-Beingを保障する学校をつくる。 3 地域の教育力を活用し、地域とともにある学校をつくる。 4 計画的に学校予算を執行し、安全安心で美しい学校をつくる。 5 ワークライフバランスを整え、一人ひとりがもてる力を発揮し、高め合う教職員集団をつくる。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和9年2月4日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1 <現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科すべて全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習意欲・学力ともに個人差が大きい。 <課題> ○文部科学省の研究指定を受け、教育課程の柔軟化を図り、学習の計画を立てたり、振り返ったりする時間を確保する。 ○家庭学習を含め、習熟度の違いを踏まえた取組をする必要がある。 ○「学んだことが社会や生活に生かせる」と実感できるよう、教員の働きかけが必要である。	・真の学力の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習の質的向上を目指し、全教員がICT端末を活用した公開授業を、年2回以上実施する。 2 学習課題や学習方法など、児童が自分で決める活動を取り入れた授業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 年2回の公開授業を、ICT 端末を効果的に活用して実施したか。 2 学校評価「授業では、学習課題や学習方法など「自分で決める」活動を取り入れている」教職員の「A そう思う」評価の向上 (R7:39.5%) 			
		・自己調整能力の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の解決に向けて自分で考え取り組む授業を繰り返し行い、学び方の指導を進める。 2 総合的な学習の時間を核として、学びを生かして活動する場面や声掛けを実施させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいたか」児童の「A そう思う」評価の向上 (R7:53.3%) 2 学習の振り返りで自分の成長の気付きや今後さらに追及したいこと等への記述が増え、質的向上が見られたか。 			
心のサポートに関する取組	2 <現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。 ○欠席が15日以上の子が多い。 <課題> ○児童のよさを保護者と共有し、チャレンジする気持ちを高める指導を継続する必要がある。 ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に相談・支援していく体制を継続していく必要がある。 ○保護者を支える視点を持ち、専門機関と連携する。	・Well-being な児童の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童のよさに着目する「努力を認め励ます」教育を推進する。コーチングの手法「成功のなぜを問い、失敗の次を聞く」指導を徹底する。 2 委員会活動を中心に、自らのアイデアを実現する機会をもつ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「先生はあなたのがんばったことやよいところを褒めたり励ましたりしてくれますか」児童の「A そう思う」評価の向上 (R7:61.7%) 2 委員会活動において自らのアイデアによるキャンペーンを実施できたか。 			
		・SOSの早期覚知と組織的対応の強化	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己肯定感の向上を目指した教育相談、発達支持的生徒指導体制を充実させ、凡事徹底、迅速・誠実・アフターケアの対応をする。 2 スクールダッシュボードや欠席連絡フォームを用いて児童のSOSや保護者の要望に迅速に複数で対応する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談、生徒指導部会を定期的に開催したか。事案発生時には、複数体制で即日対応したか。 2 スクールダッシュボードや欠席連絡フォームを毎日複数の教員で確認し対応したか。 			
地域とともにある学校づくりに関する取組	3 <現状> ○学校運営協議会で、地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標に向かってできることをアクションプランにまとめた。 ○児童の考えを大切にしながら取組を行っている <課題> ○地域の一員として、地域や社会をよりよくするために何かしたいという意欲を継続して育む必要がある。 ○アクションプランを実行する。 ○OPTA ボランティアとの連携をより充実させる。	・浦和大里地区の子どもの健全育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場をつくる。 2 地域、家庭、学校、児童が学校教育目標の実現にむけた取組「アクションプラン」に基づき、進捗状況や成果などを話し合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営協議会に児童が参加し意見を述べることができたか。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」児童の肯定的評価の向上 (R7:88.3%) 			
		・目指す子ども像を家庭や地域と共有するための教育活動の充実	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学校ボランティア」を活用する。 2 総合的な学習の時間で、地域をフィールドとした教育活動を実施する。 3 学校ホームページを週3回以上更新する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「地域の教育資源の積極的な活用」教職員の肯定的評価の向上 (R7:84.6%) 2 学校ホームページを週3回以上更新できたか。 			
教育環境の整備に関する取組	4 <現状> ○予算委員会を実施し、目的を明確にした購入計画を立て、計画的に予算を執行している。 ○使用していない物品が校内に点在している。 <課題> ○落ち着いた環境作りのため、教職員による施設設備の安全点検や整理整頓を確実に実行。	・安全安心で美しい学校環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> 1 義務教育学校の開校を見据え、事務を中心に校内の環境整備に取り組む。 2 定期的に安全点検を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員作業を中心に不要物の廃棄を積極的にを行い、誰もが使いやすい状態にしたか。 2 安全点検で判明した瑕疵に対して、1週間以内に対応したか。 			
		・優先順位を見極めた計画的な予算の執行	<ol style="list-style-type: none"> 1 5月に予算委員会を開催し、年間を見通した計画を立て、12月に予算の執行状況を確認し、計画の見直しと効果的な執行を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 5月に予算委員会を開催したか。12月に進捗状況を確認し、必要に応じて修正したか。 			
教職員のキャリア形成に関する取組	5 <現状> ○時間外在校時間の平均は26.5時間程度である。 ○教職経験年数の平均が12.5年である。 <課題> ○事務作業が増える時期に会議を入れず、時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係作りが必要である。	・切磋琢磨し共に高め合う教職員集団づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導者を招聘し、授業改善を核とした校内のグループ研修体制を作る。 2 キャリアナビ、研修履歴を活用した研修奨励を行い、授業参観、職員室の様子から進捗状況を確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「校内研修の実施状況は適切である」教職員の「A そう思う」評価の向上 (R7:44.7%) 2 学校評価「キャリアナビや研修履歴を活用し自身の資質向上に努めている」教職員の「A そう思う」評価の向上 (R7:50%) 			
		・生き生きと働き続ける教職員集団づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職員の心理的安全性が保たれるよう職員室を風通しのよいものにする。 2 専科を学年の副担任として配置し、児童を多くの目でみたり、協働したりしやすい組織や環境を作る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間をとることができる」教職員の肯定的評価の向上 (R7:82.5%) 2 時間外勤務時間の削減 (R7:26h) 			

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

学校教育目標	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子の育成 ～かしこく やさしく たくましく～
目指す学校像	共に高め合う学校 よさを認め合う学校 安全で美しい学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体性、粘り強さを重点としたカリキュラムマネジメントで「真の学力」を育成する。 2 児童のSOSの早期覚知と保護者との連携強化で、一人ひとりのWell-Beingを保障する学校をつくる。 3 ICTを活用した積極的な情報発信と、地域の教育力の活用により、地域と共にある学校をつくる。 4 目的を明確に計画的に学校予算を執行し、安全で清潔な学校をつくる。 5 ワークライフバランスを整え、一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学 校 運 営 協 議 会 による 評 価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 8 年 2 月 5 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習意欲・学力ともに個人差が大きい。</p> <p><課題> ○子ども自らが、課題を見出し、主体的に取り組むことができるよう支援する必要がある。 ○「学んだことが生活に生かせる」と実感できるよう、教員の働きかけが必要である。</p>	<p>・真の学力の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目指す児童像を、教育課程を通して実現するため「カリマネ検討会」を年3回以上実施する。 2 全教員が、学習の質的向上を目指し、年3回以上の公開授業を、GIGA端末の活用を必須として実施する。 <p>・学び続ける児童の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題の解決に向けて自分で考え、取り組む授業を通して学び方の指導を進める。 2 総合的な学習の時間を核として、学びを生かして活動する場を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「教育課程を通して目指す児童像の実現を図っている」の教員の肯定的評価80%以上。 2 年3回の公開授業をGIGA端末を効果的に活用して実施したか。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「教育課程を通して目指す児童像の実現を図っている」の教員の肯定的評価100%。 2 全ての教員が、GIGA端末を活用して、年3回の公開授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、単元を通してつけたい力を児童と共有しながら、主体的に学ぶ児童を育成していく。 ・書くこと、読むことがおそかにならないように、家庭学習を含めて取り組みを充実していく。
		<p><現状> ○全国・学力学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。 ○様々な要因によりストレスを抱えるなどし、欠席が30日以上の子が複数いる。</p> <p><課題> ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に相談・支援していく体制を継続していく必要がある。 ○決められたことに取り組むだけでなく、身の回りの環境を自らの手で変えていこうとする意欲を向上させる必要がある。</p>	<p>・主体的に活動する児童の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童のよさに着目する「努力を認め励ます」教育を推進する。 2 成功のなぜを問い、失敗の次を聞く指導を徹底する。 3 委員会活動を中心に、自らのアイデアを実現する機会をもつ。 <p>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談にかかる組織的な対応の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童のSOSを見逃さないため、スクールダッシュボードを複数の教員で確認し対応する。 2 落ち着いた環境で安心して学べるSolaルームの環境を整える。 3 生徒指導・教育相談部会で情報共有と対応策を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「先生はあなたのがんばったことや良いところを褒めたり励ましたりしてくれる」の「そう思う」と回答する児童の増 (R6:53.2%) 2 委員会活動において自らのアイデアによるキャンペーンを実施できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「先生はあなたのがんばったことや良いところを褒めたり励ましたりしてくれる」の「そう思う」と回答した児童は61.7%。 2 全ての委員会活動において自らのアイデアによる活動を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価「ほめたり励ましたり」肯定的な回答は、子供も保護者も93.7%だったため、引き続きよさを保護者と共有しチャレンジする気持ちを高める。 ・児童会活動を核とし、児童が学校づくりに参画する仕組みを維持する。
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	<p><現状> ○学校運営協議会で、地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標に向かってできることをアクションプランにまとめた。</p> <p><課題> ○コロナ禍を経て、地域の方を授業に招く実践が減少した。 ○地域の一員として、地域や社会をよりよくするために何かしたいという意欲を育む必要がある。</p>	<p>・浦和大里地区の子どもたちの健全育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場をつくる。 2 地域、家庭、学校、児童が学校教育目標の実現にむけた取組「アクションプラン」に基づき、進捗状況や成果などを話し合う。 <p>・目指す子供像を家庭や地域と共有するための教育活動の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「学校ボランティア」の充実。 2 総合的な学習の時間で、地域をフィールドとした教育活動を実施する。 3 学校ホームページを週3回以上更新する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営協議会に児童が参加し意見を述べることができたか。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の児童の「そう思う」の回答の増。(R6:42.2%) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べることができた(のべ3回)。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の児童の「そう思う」の回答が51.2%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら環境に働きかけることにより、居心地の良い学校になることを理解した児童が増えた。児童のアイデアや、やってみようとする意欲を後押ししていく。
		<p><現状> ○予算委員会を実施し、目的を明確にした購入計画を立て、計画的に予算を執行している。 ○使用していない物品が校内に点在している。</p> <p><課題> ○落ち着いた環境づくりのため、教職員による施設設備の安全点検や整理整頓を確実に行うとともに、児童自らが生活環境を整え、安全意識を高める力を育む必要がある。</p>	<p>・教育環境の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程を意識した予算の執行。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵は、事務担当や業務担当と連携をとり、未対応を0とする。 <p>・安全に生活しようとする児童の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 整備された空間を維持するために清掃の仕方を身につけさせる。 2 安全に関する内容を特別活動の年間計画に組み込み、自分事として考える授業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 12月未予算執行率70%以上。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵に対し1週間以内に対応できたか。 3 レガシースペースの設置 	<ol style="list-style-type: none"> 1 12月未予算執行率は75.4%。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵に対し1週間以内に対応策を明示した。 3 レガシースペースを玄関に設置した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・使用頻度がほぼない古いものの廃棄を計画的に行う。 ・教育課程を見通した予算会議を行い、効果的な予算運用を行う。
教育環境の整備に関する取組	4	<p><現状> ○時間外在校時間の平均は34時間程度である。 ○教職経験年数の平均が12.7年である。</p> <p><課題> ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が激増する時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。</p>	<p>・生き生きと働き続ける教職員集団づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 時数を整理し、学期初めの4時間授業、学期終わりの放課後フリーを実現し、事務作業を行う時間を確保する。 2 専科を学年の副担任として配置し、児童を多く目で見たり、協働したりしやすい状況をつくる。 <p>・切磋琢磨し共に伸びる教職員集団づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 少人数の研修グループをつくり、授業改善を核とした研修体制をつくる。 2 キャリアナビ、研修履歴を活用した研修奨励を行い、授業参観、職員室の様子から進捗状況を確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間ととることができる」の職員の「そう思う」の回答の向上 (R6:28.9%) 2 時間外勤務時間の削減 (R6:33h50m) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間ととることができる」の職員の「そう思う」の回答は32.5%。 2 時間外勤務時間の平均は26h53m。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの取組が成果を上げていたため継続して取り組む。行事計画の綿密な立案により、時数の整理と業務の標準化をさらに進める。 ・副担任制や研修グループ等、職員が協働し合う職場づくりを継続する。
		<p><現状> ○時間外在校時間の平均は34時間程度である。 ○教職経験年数の平均が12.7年である。</p> <p><課題> ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が激増する時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。</p>	<p>・切磋琢磨し共に伸びる教職員集団づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 少人数の研修グループをつくり、授業改善を核とした研修体制をつくる。 2 キャリアナビ、研修履歴を活用した研修奨励を行い、授業参観、職員室の様子から進捗状況を確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「校内研修の実施状況は適切である」の肯定的評価の向上 (R6:75%) 2 学校評価「キャリアナビや研修履歴を活用し、自身の資質向上に努めている」の「そう思う」評価の向上。(R6:33.3%) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「校内研修の実施状況は適切である」の教職員の肯定的評価は94.7%。 2 学校評価「～自身の資質向上に努めている」の「そう思う」の評価は50%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内のグループ研修に教育委員会の指導主事の参加を依頼し、専門的な指導のもと授業力を向上させる。 ・校内研修だけでなく、外部の研修にも参加するよう啓発していく。
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<p><現状> ○時間外在校時間の平均は34時間程度である。 ○教職経験年数の平均が12.7年である。</p> <p><課題> ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が激増する時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。</p>	<p>・生き生きと働き続ける教職員集団づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 時数を整理し、学期初めの4時間授業、学期終わりの放課後フリーを実現し、事務作業を行う時間を確保する。 2 専科を学年の副担任として配置し、児童を多く目で見たり、協働したりしやすい状況をつくる。 <p>・切磋琢磨し共に伸びる教職員集団づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 少人数の研修グループをつくり、授業改善を核とした研修体制をつくる。 2 キャリアナビ、研修履歴を活用した研修奨励を行い、授業参観、職員室の様子から進捗状況を確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間ととることができる」の職員の「そう思う」の回答の向上 (R6:28.9%) 2 時間外勤務時間の削減 (R6:33h50m) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間ととることができる」の職員の「そう思う」の回答は32.5%。 2 時間外勤務時間の平均は26h53m。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの取組が成果を上げていたため継続して取り組む。行事計画の綿密な立案により、時数の整理と業務の標準化をさらに進める。 ・副担任制や研修グループ等、職員が協働し合う職場づくりを継続する。

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月5日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組